

# 友達の輪

今月は豊野町安見の吉崎ヒデ子さん(67歳)です。



- お仕事は?**  
宗教法人『法道寺』で法務(主に事務関係)をしています。民生委員を12年務めたほか、主任児童員は5年目になります。
- 趣味は?**  
手芸やガーデニングなどです。
- 最近凝っているものはありますか?**  
手芸に凝っており、パッチワークで人形やバッグなどを作っています。
- 夢は何ですか?**  
小学校1年生の孫が成長し、第14代目の住職として寺を継ぐ姿を見ることです。その日が来るまで元気でいれたらいいなと思います。
- 何かメッセージはありますか?**  
現在4つのボランティア活動をやっており、その中で出会う人たちから自分自身も元気ももらっている感じです。そういう意味でも、もっと若い人たちにも積極的に参加してもらいたいと思います。周りの人たちに出会えたことが何よりうれしいです。
- 次回は誰を?**  
松橋町の人を紹介します。

市派遣職員が、今の仕事や市外から見た宇城市の様子を報告します。今月は熊本県市長会東京共同事務所の野村烈さんです。

## 派遣職員の東京見聞録

8月。麻布十番納涼祭りの1区画、「おらがくに自慢」。全国各県の名物や特産品などが約100mにわたり連なります。朝取りキュウリ、モモ、ソースカツ丼、ワイン、ダイダイ、皮内地鶏、きりたんぼ...しかし何か違和感を覚え、辺りを見回すと...この区域だけお客さんが少ない!各通りの出店や国際バザールなどは大にぎわいでしたが、おらがくに自慢の一角は少し静かな印象。日ごろからさまざまな刺激を受け続ける現代人は、物産館から出張しただけのような場所には興味を持たないのでは?そうすると大多数の中から「宇城市」を手にとってもらうためにはどうしたらいいのか?宇城市にはたくさんのおみやげや特産品がありますが、これらの宝も品物同様「突



シンシカパブや北京ダックなど国際バザールの出店はどこも大行列。写真はフランスのクレープとチキンソテー

き抜け」なければ駄目だと感じ、生まれつきの市の知名度を上げていくのは、これから相当険しい道程だと、いつもと違う汗をぬぐった夏の日でした。

interview - ⑦ -

# ひと

歩く早さを競う陸上競技「競歩」。10月に開催される、のじぎく兵庫国体で成人女子10,000mの頂点を目指す女性がいます。

中・高とずっと中・長距離をやってきました。高校2年の9月、全国高等学校総合体育大会の時は800メートルに出場。県予選の準決勝で敗退しました。その時に、監督から「どうしても君を全国に連れて行きたい。競歩をやってみないか?」と言われ、特に悩むことも無く薦められるままに始めることにしました。始めた当時は競歩という競技が一般に知られていなかったため、競技者もそれほど多くありませんでしたが、今ではかなり多くの人が出場しています。将来は、競歩を続けながら後進の育成に励みたいのです。

## 7年間のすべてを出し切りしたい

桑崎留美さん (不知火町長崎)



くわさぎ・るみ  
1984年生まれ。  
不知火小⇒不知火中⇒信愛女学院高校  
⇒熊本大(現在4年)

- ◎これまでの主な成績
- 平成14年9月 高知国体3位
  - 平成18年1月 第89回日本陸上選手権5位
  - 5月 九州インカレ2位



# みんなで学ぼう

## ピンけん

生涯学習課  
人権教育係  
☎33-1240  
(内線332)

## 同和地区の起源

同和地区は江戸時代の幕藩体制下で、人々のケガレ意識を巧みに利用した権力者によってつくられたものです。民衆の仕事と住所を固定させることで、生活に苦しむ民衆の不満を同和地区に向けさせ、自分たちより低い身分があると思わせ差別させました。いわゆる「下見て暮らせ」の政策を利用し、社会の仕組み(身分制度)の中で差別意識がつくられていったのです。

明治になり「解放令」が出されましたが、政府がこれまでの差別を進んでなくそうとしなかったこともあり、同和地区の人々は差別を受け続けました。

私たちはこれから多くを学ぶことができます。一つは現在の社会にはたくさんの差別意識があるということ。職業、障害者、女性、労働者、在日外国人など、「あの人は上」とか「下」とか差別意識を持たされる仕組みが社会の中にあるのです。

もう一つ。「下見て暮らせ」の意識は私たちの生活の中にたくさんあります。「あそこは良すぎる」と

足の引っ張り合いをしますが、そのことはお互いの暮らしを高めることにはならないのです。

同和地区の起源を知る人について10年前と比較すると、正しい認識を持つ人がかなり増加しています。しかしまだまだ「加藤清正が朝鮮から連れて来た子孫」という誤った考えを持つ人も多くいます。

例え「加藤清正が連れて来た子孫」だとしても、大陸の優れた文化や技術を日本に運んで来た大切な人々です。「外国から来た人だ」と差別すること自体、おかしいことではないでしょうか。

また、同和地区の起源を知っていても「権力者が悪い。だから私たちには関係がない」と考えてしまう場合があります。差別を支えているのは、私たちの無関心さでもあります。私たちの生活が豊かになるために、部落差別をはじめ、あらゆる人権問題に関心を持ち学んでいきたいものです。

同和問題の解決のためには、歴史をはじめ、部落解放への取り組み、それに携わる人々の思いなどを正しく理解することが大切なのです。



宇城市では現在、5台のマイクロバスが稼働しています。その利用状況はどうなっているのか、本庁財政課の野田知宏係長にお尋ねしました(下表参照)。

各課ごとの行政・福祉主催の会議や研修に十分活用されています。ほんの一例ですが、民生委員研修、保育園行事、小学校社会見学、議事事務局の現地調査、視察など。町で灰色のボディーに「宇城市」と書かれたマイクロバスを見つけた時、宇城市民としてちょっと身近に感じてもらえたら、と思います。

## 「ご存じでしたか?」 「マイクロバス」

古賀結美子

### 宇城市マイクロバスの利用状況

保有場所	台数	管理担当課	運転手	使用条件
本庁	2台	財政課	非常勤職員	各種団体などの利用希望が多過ぎて対応できないため、行政主催の会議や研修会のみ使用可としています。 ※2台のうち1台(平成2年購入)は処分を検討中です。
三角支所	1台	健康福祉課	市職員	旧三角町で福祉専用バスとして購入したため、使用も三角町の福祉業務のみとしています。
不知火支所	1台	総務課	社会福祉協議会職員	社会福祉協議会の業務を優先し、空きがある場合に限り行政業務の使用も可としています。
豊野支所	1台	総務課	非常勤職員	原則、行政業務を優先していますが、旧豊野町で福祉業務を優先してきた経緯もあり、お互い調整し合って使用しています。